

2022 年 5 月 吉日

アピール会会員 各位

東洋食品工業短期大学
アピール会
会長 西山 正一

2022 年度 アピール会本部役員会

拝啓

新緑の候 会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は本会発展のため何かとご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「新型コロナウイルス感染」という未曾有の出来事で、2 年余り本会におきましても本部・支部ともに通常の活動が出来ない状態が続いております。

2022 年度の役員会開催に於いては、3 月下旬に「まん延防止」が全面解除され、4 月下旬を目途に準備を進めて参りましたが、減少傾向の鈍化が続き、地域によっては増加の傾向が表れ、また 4 月・5 月は新年度を迎え人の動きが活発になり、警戒が必要な時期で、役員全員が集まっての開催は無理との判断に至り、甚だ勝手ながら昨年と同様に書面による役員会開催と成りましたので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

よって役員には、議題項目に関する資料等の書類送信を行い、内容の確認後、賛否の意思表示、意見等を記載して、署名の上「回答書」の返信を取り纏める役員会とさせていただきます事をご報告申し上げます。

敬具

1. 千本学長から短大の近況報告について

2. 議題項目

- 第 1 号議案 2021 年度収支決算書報告の件 (資料 1 参照)
- 第 2 号議案 2021 年度会費入金状況報告の件 (資料 2 参照)
- 第 3 号議案 2021 年度および 2022 年度支部活動報告の件
- 第 4 号議案 2022 年度収支予算書 (案) 報告の件 (資料 3 参照)
- 第 5 号議案 任期満了に伴う役員改選の件

アピール会 本部役員の皆様へ

2022年4月25日
東洋食品工業短期大学
学長 千本 克巳

いつも本学の活動にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は冬季オリンピック北京大会が終わってすぐに始まったロシアによるウクライナ侵攻が平和な時代を過ごしてきた我々に非常に大きなショックを与えました。武力による他国の都市破壊や一般市民の虐殺は、決して自国の幸福や発展に結び付きません。

このような戦争がひとたび生ずると、資源を持たない日本の経済は、大きな打撃をこうむることが今後も想定されます。これに対抗するためには、強い経済力はもとより、世界から信頼される平和な国家を希求していくことだと信じています。本学の使命として、その経済力を支える「人材育成力」をより一層高め、日々の短大運営に励みたいと思います。

さらに、長引く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応が皆様やご家族の方々の日常生活および事業活動に与えるダメージが最小限で収まることを祈っております。

人類にとっての二大脅威である「戦争」と「パンデミック」を経験している現在、平穏で安全な世界が1日でも早く戻ってくることを願っています。

本学の近況ご報告

1. 学生ならびに教育の状況

まず、最初に2021年度は学校教育法第109条に基づいて、7年に一度の短期大学基準協会による認証評価を受け、3月末に適格と認定されました。今年度から次回の7年後を見据え、事業活動をさらに発展させていきます。

次に、卒業生・新入生の状況をお知らせします。卒業生は対象33名中、就職希望者25名全員が早々に内定を確保し、企業派遣生7名、4年制大学への進学者1名と合わせて全員の進路が希望通り確保できました。コロナの影響を心配しましたが、幸い食品業界は人材採用にも堅調だったと感じました。この結果に気を緩めることなく、今年度も学生の就活支援はより一層力をいれているところです。表-1参照

表-1. 卒業生の進路状況

第60期生（2022.3卒業）	人数	備考
1. 卒業者	33	男性22名、女性11名
2. 一般就職（企業派遣除く）	25	
3. 企業派遣	7	
4. 進学	1	公立大学3年次への編入

卒業生の進路については傾向に大きな変化はなく、食品・飲料メーカーを中心に容器メーカー、医薬品メーカー、食品機械メーカーの順となっています。図-1 参照

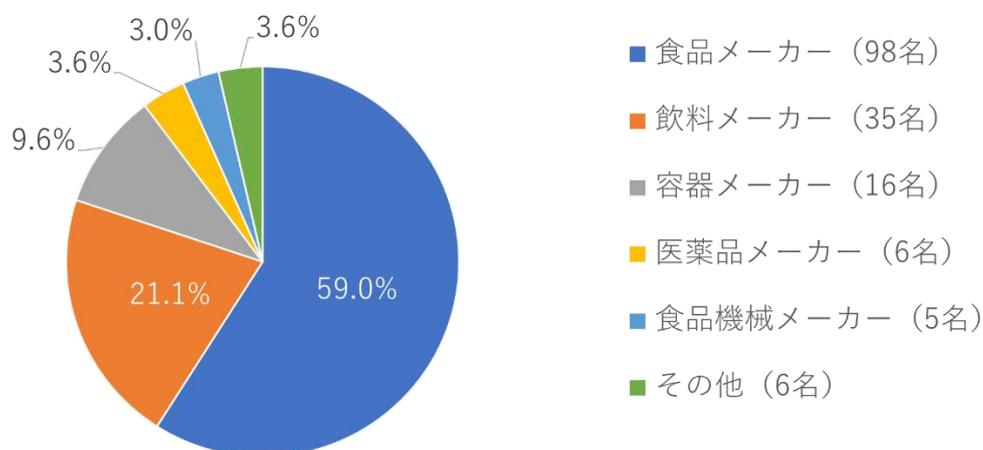


図-1 卒業生が活躍している業界（過去5年：計166名）

2022年度新入生は34名と、定員35名に対し1名定員割れの状態で新学期がスタートしました。従って、2年次生27名と合わせて、学生数は61名となっています。

表-2 参照

表-2. 新入生の状況

第61期生 (2022.4入学)	人数	推薦	一般	留学	社会人
志願者	42	28	11	1	2
受験者	42	23	8	1	2
合格者	34	23	8	1	2
入学者	34	23	8	1	2
		入学者 (男性)	22		
		入学者 (女性)	12		

年度別志願者数の推移に関しては、長期にわたって減少傾向が続いてきました。今年度は昨年度に比べやや持ち直した結果です。しかしながら、まだまだ安心できる状況ではなく、学生募集活動にさらに力を入れていかなければならないと強く感じています。表-3 参照

表－３．年度別入学者数の推移

年度	推薦入試		一般入試		留学生		社会人		合計	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
2022	28	23	11	8	1	1	2	2	42	34
2021	25	20	9	8	0	0	0	0	34	28
2020	30	23	16	11	0	0	1	1	47	35
2019	32	21	21	13	0	0	0	0	53	34
2018	34	23	15	11	0	0	2	2	51	36
2017	37	24	25	12	0	0	1	1	63	37

次に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響ですが、事業活動は昨年を引き続きかなり大きな影響を受けながら進めています。卒業式・入学式は対面で実施できたものの昨年同様規模を縮小させ、対象学生とご家族、理事長および教職員だけで短時間で執り行いました。一方、講義、実習は全て対面で行っており、「学生への学習機会の確保」という意味ではほぼ通常に戻った感があります。

さらに、夏休み期間を利用した社会人育成講習会は今年も開講予定です。学会や学外団体との会議等はオンライン開催が普通となりましたが、今年は少しずつコロナ前に回復していくのではないかと期待しています。

学内ではマスク着用、手指消毒、毎朝のアルコール消毒等、教職員全員で感染対策を継続しています。順次 3 回目のワクチン接種者も増えており、コロナ前にはまだまだ戻っていませんが、全員の協力のおかげで、学内だけを見れば普通の日常が展開できています。

2. 情報セキュリティ強化と情報活用力強化について

昨年3月末に短大のファイルサーバーが悪意をもった第三者からウイルス攻撃を受け、データが破壊されるとともに盗み出したデータを一般に公開するとの脅迫を受けるサイバーセキュリティインシデントが発生しました。この件で、関係する皆様には大変ご心配をおかけしました。その後、国内外で多くの企業や医療機関等が同様のウイルス攻撃を受けたとのニュースが繰り返し報道され、深刻な社会問題に発展してきています。

本学ではこのような事故を絶対再発させないとの決意を込めて、2021年度は情報システムのセキュリティレベル向上に向けた設備対応を完了させ、現在は運用ルールの強化とともに我々の意識改革にも取り組んでいます。これにより2022年度は「守りを固める」活動を完了させます。

さらに、「守る」だけでなく、せっかくの情報機器をうまく活用して、教育研究活動や日々の業務改善で成果を上げていく、言わば「攻め」の活用も加速したいと考えています。

3. 今年度の主な事業活動

今年度は力を入れる取り組みとして、以下のような案件が挙げられます。いずれも複数のメンバーが部門横断的に協力して進めている案件です。

① 学生募集活動の活性化・多様化

定員割れを防ぎ、本学に相応しい学生を集めることが喫緊の課題です。このため、従来の高校訪問による募集活動に加えて、スマホ世代の高校生にダイレクトに本学の魅力が届くように、インターネットを活用した募集広報を始めました。また、水産・農業高校を中心に出前授業を行い、缶詰製造や PET ボトルキャッピング実技を体験してもらい、志願者増加を目指しています。

② 新校舎の建設プロジェクト

老朽化が進んだ校舎の問題点解消と教育内容の変化に対応し、さらに目の肥えた平成育ちの若者にとっても魅力的に見える新校舎建設を目指しています。今年度は工事を任せる建設会社の選定を完了させ、建築契約締結を予定しています。

人事面では、3月末で退任した教職員が4名（後藤隆子教授、谷岡光男講師、福森正明事務室長、高野要事務室課長）、4月に新たに採用した教員は1名（甲斐正次郎副学科長）です。なお、後藤隆子教授は本学規程に基づき、名誉教授の称号が授与されました。

また福森事務室長の後任として、本年1月に採用した赤峰幸治事務室課長が新たに事務室長に就任しました。教職員の高齢化、世代交代に対応して、今後も計画的に採用と業務のバトタッチを進めていきます。資料として赤峰事務室長、甲斐副学科長の自己紹介を添付しましたので、ご参照願います。

高額（1件5,000千円以上）な教育設備投資案件として、今年度はPETボトル用サーボキャッパーの導入を計画しています。現在、我が国の飲料PETボトル用樹脂キャップは「フラップタイプ」から「フックタイプ」へ軽量化が進んでいます。また、軽量化に伴い、キャップ巻締管理もより精密さが求められており、設備導入を決めました。今後も製品並びに技術の変化に対応した装置を教育用設備として整備していきます。

今年度の研究活動については、共同研究6件、受託研究2件、独自研究14件の合計22件で実施中です。昨年度からの継続案件が16件（共同研究6件、受託研究2件、独自研究8件）、新規案件が6件（独自研究6件）となっています。今後も外部への積極的な研究内容紹介や講演活動をはじめ、科研費・研究助成金・受託研究費等外部資金の獲得を強く意識して取り組んでいきます。表-4参照

表－４．研究活動の状況

研究区分	2021年度			2022年度		
	件数	継続	新規	件数	継続	新規
共同研究	4	3	1	6	4	2
受託研究	3	2	1	2	2	0
独自研究	14	11	3	14	10	4
合計	21	16	5	22	16	6

4. 卒業記念パーティに替わる同窓会の実施計画

本学ではこれまで学位記授与式終了後の午後、宝塚ホテル大広間で卒業記念パーティ（謝恩会）を開催してきました。しかし、COVID-19の影響で第58期・59期・60期生の3年間とも中止となってしまいました。学生生活最後の思い出作りが果たせなかった卒業生には大変申し訳ない思いでいっぱいです。そこで、今年は8～9月の時期に3回に分けて、交通費、宿泊費等は短大負担で、卒業記念パーティに替わる同窓会開催を計画しています。既に社会人となり全員集合は無理だと思いますが、都合がつく卒業生だけでも集まって、教職員とともに会話できる機会を設けたいと考えています。

最後に、COVID-19 拡大の影響でアピール会の総会・支部総会もなかなか開催できない状況が続いていますが、今後も本学は卒業生に対して頼もしい短大を目指すことに努めていきます。そのためにも最強のパートナーであるアピール会の組織力アップ、活動の活性化には可能な限り後押ししていきたいと考えています。ご協力できることがありましたら、お気軽にお声がけいただきたく存じます。

以上

添付資料



赤峰 幸治（あかみね こうじ）

（略歴）

1994（平成 6）年3月	中央大学商学部卒業
1994（平成 6）年4月	東洋製罐(株)入社（横浜工場総務課配属、10月より営業課勤務）
2004（平成16）年4月	東洋製罐(株)本社営業本部
2011（平成23）年4月	東洋製罐(株)基山工場西日本販売部
2012（平成24）年4月	東洋製罐(株)本社勤労部
2022（令和 4）年1月	東洋食品工業短期大学事務室
2022（令和 4）年4月	東洋食品工業短期大学事務室長拝命

（ご挨拶）

アピール会の皆さま

1月より事務室で勤務しています赤峰と申します。

バブル崩壊後に東洋製罐に入社し、長らく外回りの営業をしていました。一般食缶、飲料缶、飲料用PETボトルなどの容器、充填に必要な設備販売のサポートを行っていました。その後、勤労部（現：人事部）にて教育訓練の企画を行っていました。2つの部門を経験していますが、共通しているのは相手が「人」であったことです。事務室でも相手は学生という「人」です。これまでの経験を活かし誠心誠意、業務を推進して参りたいと思っています。

趣味はゴルフです。コロナ禍でなかなか誘いにくい面もあり回数は減りましたが、状況さえ整えばラウンドしたいと思っています。問題は「雨男」なところ。「赤峰から誘われると雨の日が多い」と友人からクレームをよくもらいます。

関西は、生活も勤務も初めてです。ゴルフはもちろん、コロナ禍でほぼ出かけていないので、名物料理や景勝地もこれから経験したいと思っています。機会と状況が許せば、是非お誘いいただければと思います。これから宜しくお願いします。



甲斐 正次郎 (かい しょうじろう)

(略歴)

1993年 東京工業大学工学部 (高分子工学科) 卒業

1993年 東洋製罐株式会社入社 (東食短大での入社式で社会人生活がスタートしました)

1993年久喜工場品質課、1997年技術本部プラスチック容器技術第二部、2003年開発本部ペットボトル開発部、2010年大阪工場品質課、2013年テクニカル本部基盤技術部、2015年本社資材部、2016年ベトリファインテクノロジー(株)設備部、2018年東洋製罐グループホールディングス(株)総合研究所事務室、2022年東洋食品工業短期大学。

(ご挨拶)

この度、東洋食品工業短期大学で副学科長を務めることとなりました甲斐正次郎です。

福岡県 (北九州市) 生まれですが、中学校からは東京で育ちました。高校・大学時代はラグビーに明け暮れており (当時は今よりスリムでした) いつも体中キズだらけでした。ポジションはフォワード (ナンバーエイトやプロップ) で、学生時代のラグビースピリット (One for All, All for One) は、今でも私の考え方の基本となっています。

東洋製罐では、開発部門で15年勤務し、主にPETボトルの製品開発、材料開発に従事しました。小容量PETボトルが大きく伸長する時期で、大変でしたが楽しい時代を過ごせたと思います。代表的な製品は、オキシブロック (2種5層の酸素吸収能を有するホットウォーター用PETボトル) です。開発以外の業務では、容器製造工場の品質課で、食品メーカーの厳しい品質要求への対処などを、本社資材部では、国内外から低価格高品質のPET材料の調達を、総合研究所では事務室長として、総務、労務、庶務、経理、工務、情報システムなど多岐にわたる雑多な業務の責任者を務めました。技術系・事務系両方の業務に従事した経験があり、それぞれに奥深さを感じています。

私が仕事でいちばん大事にしているのは、「内発的動機」です。同じ仕事をする場合でも、自らが心からその業務に対し前向きに取り組めたならば、そうでない場合よりも格段に出来栄は良くなります。管理職になってからはいつも、いかにして「内発的動機付け」を行うか、を意識した職場づくりを実践しています。

趣味は海外旅行（コロナのため2年以上お預けですがこれまでに20数ヶ国に渡航しました）、ランニング（フルマラソン10回完走+2回途中棄権）、将棋（藤井聡太竜王の活躍で見る将となりました）です。

前回の関西勤務（東洋製罐大阪工場）のとき、初めて花園ラグビー場や甲子園球場に行きました。今回は、関西将棋会館や宝塚大劇場に行ってみたいと思っています。

さて、このたびは短大での仕事ということで、全く未経験の分野の仕事が多く、日々驚きの連続です。これまでの経験や人脈も活かしつつ、周囲の方のお力添えを頂きながら、新たなステージと捉え、精一杯頑張っ参ります。アピール会の皆様には大変お世話になると存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今回書面によるアッペール会本部役員会の開催を行い、役員 18 名のうち会長および事務局長を除く 16 名のうち 15 名の役員から「回答書」を得ました。

第 1 号議案 2021 年度収支決算書報告の件

本会計について事前に本間会計監査員により監査を行い、会計内容、帳簿等適正に処理済みであるとの確認後、役員会に収支決算報告書を提出。

15 通の「回答書」すべてが「異議なし」との回答があり承認されました。

第 2 号議案 2021 年度会費入金状況報告の件

15 通の「回答書」すべてが「異議なし」との回答があり承認されましたので、速やかに各支部長宛に、本年度の「支部活動助成金」を送金いたしました。

第 3 号議案 2021 年度および 2022 年度支部活動報告の件

15 通の「回答書」すべてが「異議なし」との回答があり承認されました。

一昨年春から今日まで、「新型コロナウイルス感染」という問題が発生して、本部・支部ともに予定していた総会等の行事が中止となり、通常の活動が出来ない状態が続いております。

第 4 号議案 2021 年度収支予算（案）報告の件

15 通の「回答書」すべてが「異議なし」との回答があり承認されました。

第 5 号議案 任期満了に伴う役員改選の件

15 通の「回答書」すべてが「異議なし」との回答があり承認されました。

今年は 2020 年の役員改選後 2 年が経過、会則第 19 条の「役員改選」の年でありましたが全員「留任」となりました。

「2022 年度役員」

会長・四国支部長	西山 正一
副会長	富樫 健
同	鈴木 稔
同	松原 清俊
北海道支部長	豊田 勝己
東北支部長	三枝 通晃
関東支部長	渡辺 昇
信越支部長	中村 正和
静岡支部長	石田 雅則
名古屋支部長	岡本 雅志
近畿支部長	長塚 洋二郎
中国支部長	竹内 毅
九州支部長	原 裕久
会計幹事・事務局長	斎藤 至康
会計監査	本間 欽吾
同	中野 栄介
相談役	野上 健次 (17 名)

[資料編]

別添資料 1 2021 年度アッペール会本部 収支決算書

別添資料 2 2022 年度アッペール会支部活動助成金 支払明細書

別添資料 3 2022 年度アッペール会本部 収支予算書 (案)

資料 1

2021年度 アppeール会本部 収支決算書

[自 2021年4月1日 至 2022年3月31日]

単位:円

収 入				支 出			
摘 要	2021年度 予算	2021年度 決算	増 減	摘 要	2021年度 予算	2021年度 決算	増 減
前期繰越金	6,351,675	6,351,675	0	本部役員会開催費	300,000	13,179	△286,821
第61期生入会金	840,000	840,000	0	支部活動助成金	250,000	248,601	△1,399
年会費	700,000	688,000	△12,000	支部総会出席役員旅費等	100,000	0	△100,000
預金利息	650	717	67	学生会バスツアー援助金	300,000	294,520	△5,480
				災害援助ボランティア活動費	6,000	6,150	150
				封筒および年会費払込書制作費	150,000	166,320	16,320
				年会費納入願書等郵送費	125,000	129,374	4,374
				年会費振込手数料	44,000	43,867	△133
				過剰入金による返金	0	2,519	2,519
				卒業式・入学式祝電代等	8,000	3,148	△4,852
				会計・事務処理業務費等	200,000	184,080	△15,920
				雑費	5,000	3,314	△1,686
				次期繰越金	6,404,325	6,785,320	380,995
合計	7,892,325	7,880,392	△11,933	合計	7,892,325	7,880,392	△11,933

上記記載事項について相違ないことを認めます

2022年4月1日

会計監査

本間 欽吾



中野 栄介

印

資料 2

2022年度 アppeール会支部活動助成金 支払明細書

(2021年度本部会費入金に基づく)

支部名	会員数	会費入金 口数	入金率 %	支部活動助成金		受領印
				単価(円)	助成額(円)	
北海道	22	8	36	700	5,600	
東北	144	65	45	700	45,500	
関東	233	55	24	700	38,500	
信越	41	11	27	700	7,700	
静岡	141	25	18	700	17,500	
名古屋	83	16	19	700	11,200	
近畿	481	80	17	700	56,000	
中国	69	17	25	700	11,900	
四国	118	27	23	700	18,900	
九州	192	39	20	700	27,300	
計	1,524	343	23	700	240,100	

資料 3

2022年度 アップール会本部 収支予算書(案)

[自 2022年4月1日 至 2023年3月31日]

収 入		支 出	
摘 要	金 額(円)	摘 要	金 額(円)
前期繰越金	6,785,320	本部役員会開催費	8,000
第62期生入会金 (@30,000×34名)	1,020,000	支部活動助成金	245,000
年会費 (@2,000×350口)	700,000	支部総会出席役員旅費等	50,000
預金利息	700	学生会バスツアー援助金	300,000
		災害援助ボランティア活動関係費	6,000
		年会費納入願書等郵送費	130,000
		年会費振込手数料	57,200
		振替振込手数料 37,000	
		自動振込手数料 7,000	
		ゆうちょBizダイレクト利用料 13,200	
		卒業式・入学式祝電代等	8,000
		会計・事務処理業務費等	200,000
		雑費	5,000
		次期繰越金	7,496,820
合 計	8,506,020	合 計	8,506,020